

部長宣言

総務部長
企画財政部長
地域社会部長
市民部長
健やか部長
福祉部長
環境部長
都市整備部長
学校教育部長
生涯学習推進部長
消防長
水道局長
議会事務局長

※交野市事務分掌条例上の部および教育委員会の部、消防本部、水道局、議会事務局の各長

部長宣言											方針									
部等名称						総務部					部長		松下篤志							
この組織として主に担う “かたのサイズ” をめざす像（下線のあるもの）																				
1	2	3	4	<u>5</u>	6	<u>7</u>	<u>8</u>	9	10	<u>11</u>	<u>12</u>	13	14	15	16	17	<u>18</u>	<u>19</u>	<u>20</u>	
21	22	23	24	25	26	27	28	<u>29</u>	<u>30</u>	<u>31</u>	32	<u>33</u>	34	<u>35</u>	<u>36</u>	37	38	<u>39</u>	40	
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	
61	62	63	64	65	<u>66</u>	<u>67</u>	<u>68</u>	69	70	<u>71</u>	<u>72</u>	73	74	<u>75</u>	<u>76</u>	<u>77</u>	<u>78</u>	79	<u>80</u>	
<u>81</u>	<u>82</u>																			
この組織の施策の柱と目的																				
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点					
職員の能力開発、人材育成の推進					職員一人ひとりの能力や可能性を最大限に引き出せることができる環境づくりを推進するとともに、目標管理による職員の意識改革の推進、人材育成を図る。										自治 自助					
コンプライアンスの確立					職員一人ひとりが法令を遵守し、全体の奉仕者として市民に対して、常に誠実で公正公平に職務を遂行できる組織の確立を図る。										自治 自助					
情報施策の充実					市の政策・事業に関する情報や市民生活に必要な情報等を市民にわかりやすく提供する。また、公平公正で開かれた市政の運営を推進するために情報公開制度の適切な運用と個人情報の適正な管理に努めるとともに、庁内・広域のネットワーク環境や機器の整備・運用、管理を行う。										自立 共生					
適正な定員管理と給与管理					人材育成と職員の士気の高揚を配意しながら職務給の原則、均衡の原則等に基づき、適正な給与水準の維持に努める。行政需要や職員構成に考慮し、事務事業や事務量に応じた職員の定員管理を図る。										自治 自立					
市民等利害関係者に対して					行政組織の中心として、全ての部局の先頭に立って役割を果たす。市民ニーズの把握と的確な情報発信に努め、交野の魅力を更に高める。															
市長・議会に対して					情報の共有に努め、市長や議会の意図するところを的確に把握し、自らの立ち位置を誤ることなく、情報提供、説明責任を果たす。															
特に重点的に取り組もうと考えていること																				
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み										
<ul style="list-style-type: none"> ・目標管理型評価制度の試行及び運用 ・マイナンバー制度への対応（個人情報保護） ・適正な定員管理と職員配置 ・職員の法務能力の向上 ・職員の健康管理とメンタルヘルス対策 										<ul style="list-style-type: none"> ・評価制度を踏まえた人材育成計画の策定 ・多様な情報発信ツールの検討 										
部長としてチャレンジしてみたいこと																				
堅実性、信頼性を高めるために					自己決定・自己責任による行政推進のため、職員の更なる意識改革と能力の向上を図る。組織でのコンプライアンスの確立															
創造性、面白さを求めて					交野の特性を生かした行政運営を目指し、積極的な情報収集とともに、新しい発想やアイデア、チャレンジが生かされるよう市役所の構造転換を図る。															

		部長宣言		組織力	
部等名称	総務部	部長	松下篤志		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	全庁的な情報、動きを把握できる 情報の受発信機能がある		機会	情報処理端末・ネットワーク技術の進展	
弱み	業務量の増加		脅威	事務事業の複雑化・多様化 情報セキュリティの脅威	
部が組織力を発揮するための課題					
	機会			脅威	
強み	機会を強みで活かすために ・共治のまちと言われるよう、行政と市民が共に手を携え行政展開する。 ・全庁、市民等へのタイムリーな情報提供			脅威を強みで機会に変えるために ・職員の企画、提案、自主改善行動を奨励し、人材力を発揮させる。	
弱み	機会を弱みで逃がさないために ・情報を共有し、市民力を行政に呼び込む。			脅威を弱みで最悪にしないために ・やりがいのある職場、仕事・環境をつくる。 ・効率的な事務の推進	
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)	組織での情報の共有化と役割分担の明確化 通常業務のマニュアル化 指示命令系統の統一化				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	的確な情報伝達と意思決定 職員個々の知識・能力の向上と、業務効率化の推進				
意思決定 (仮説・スピード)	業務の明確な把握と重要度、緊急度のみきわめによる優先順位による業務執行先を見通し、すばやく行動できる職場環境づくり 職員の政策形成能力やプレゼンテーション能力の向上				
組織文化 (開放的・自発性)	コミュニケーションが活発で風通しの良い職場づくり 違いを認め合い、個人の長所を活かしながら、組織として結果の出せる体制づくり 指示待ちではなく、行政のプロとして自ら研究し課題解決できる職員の育成				
組織構造 (分権・変化対応)	部内会議、課内会議の定期的な開催による職員間の情報共有、部内、課内の調整及び応援体制の確立				
価値観 (創造性・つながり)	新しい発想やチャレンジが生まれ、活かされる職場風土づくり				

部長宣言											方針										
部等名称		企画財政部									部長		良 幸 浩								
この組織として主に担う “かたのサイズ” をめざす像（下線のあるもの）																					
1	2	3	4	<u>5</u>	6	<u>7</u>	8	9	<u>10</u>	<u>11</u>	<u>12</u>	13	14	15	16	17	<u>18</u>	<u>19</u>	20		
21	22	23	24	25	26	<u>27</u>	28	<u>29</u>	<u>30</u>	<u>31</u>	<u>32</u>	<u>33</u>	34	<u>35</u>	<u>36</u>	37	38	<u>39</u>	40		
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60		
61	62	63	64	65	<u>66</u>	<u>67</u>	<u>68</u>	69	70	<u>71</u>	<u>72</u>	73	74	<u>75</u>	<u>76</u>	<u>77</u>	<u>78</u>	79	<u>80</u>		
<u>81</u>	<u>82</u>																				
この組織の施策の柱と目的																					
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点						
公設秘書					市長・副市長の公務を管理するとともに、指示事項の調査や、関係機関等との調整を図り、的確な判断及び適切な施策実施ができる環境を整える。										自立 共生						
総合的な行政経営の推進					経営的視点を踏まえ、各部署が実施する施策・事業について政策・財政コントロールを行う。										共生 共助 共感						
健全な財政運営の推進					社会経済情勢等を踏まえ、施策・事業の選択と集中とともに財源の確保を図り、財政基盤の強化を図る。										自立 共生						
公有財産の適正管理					ファシリティマネジメントの視点を踏まえ、公有財産の適正な管理とともに、利活用を図る。										自立 共生						
市税の適正な賦課・徴収					税の公平・透明・納得の原則を踏まえ、適正に市税の賦課・徴収事務を行い、安定した市税収入の確保とともに、市民の信頼を高める。										自立 共生						
部長として果たそうとする役割、責任																					
市民等利害関係者に対して					社会経済情勢や市民ニーズを踏まえ、効率的・計画的な行財政運営を推進するとともに、適切な情報発信を行う。																
市長・議会に対して					行財政の経営管理を担う部として、円滑な組織運営に努める。施策等について適切な情報提供を行うとともに、説明責任を果たす。																
特に重点的に取り組もうと考えていること																					
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み											
<ul style="list-style-type: none"> 第4次総合計画基本構想第1ステージの検証及び第2ステージの推進 地方版総合戦略の策定と施策の推進 第2次財政健全化計画の検証・総括 次期行財政運営にかかる計画の策定 民間活力の導入に関する基本方針の取組状況の検証、見直し等 公共施設等総合管理計画の策定 マイナンバー制度への対応 										<ul style="list-style-type: none"> 第4次総合計画基本構想の推進 行財政運営にかかる計画の推進 国・大阪府における「地方分権」「権限移譲」に対する対応 											
部長としてチャレンジしてみたいこと																					
堅実性、信頼性を高めるために					各部署と情報を共有するとともに連携を図りながら、円滑に施策を推進する。																
創造性、面白さを求めて					市民の視点に立った新しい発想やアイデア、チャレンジが活かされる組織づくり。																

		部長宣言		組織力	
部等名称		企画財政部		部長 良 幸 浩	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	全庁的な情報、動きを把握できる 部内で連携を図ることができる		機会	行財政運営にかかる計画等の策定、推進	
弱み	職員数の減少 業務量の増加		脅威	事務事業の複雑化・多様化 公共施設の老朽化 財政の硬直化	
部が組織力を発揮するための課題					
機 会			脅 威		
強み	機会を強みで活かすために ・適切に情報を集約するとともに、各部局と情報を共有しながら連携を図る。 ・市民等へ適切に情報提供を行う。		脅威を強みで機会に変えるために ・全庁的な情報共有を図る。 ・職員の企画、提案、自主改善行動を奨励し、人材力を発揮させる。		
弱み	機会を弱みで逃がさないために ・情報を共有し、市民や民間の力を活用する。 ・庁内、部内の連携の強化を図る。		脅威を弱みで最悪にしないために ・やりがいのある職場環境をつくる。 ・効率的・計画的な業務遂行を推進する。		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)		部内・課内会議の充実と情報共有 各種方針、計画等の共通理解 通常業務のマニュアル化			
重点管理手法 (ビジョン・対話)		効率的・計画的な業務遂行の確立 業務を通じてのコミュニケーション 適切なタイミングでの報告・連絡・相談の徹底 目標管理型評価制度(試行)の活用			
意思決定 (仮説・スピード)		的確な指示、情報伝達 業務効率化の推進 職員の能力向上			
組織文化 (開放的・自発性)		気軽に自由な議論ができる風通しの良い組織づくり 業務改善等の職員提案の機会づくり			
組織構造 (分権・変化対応)		複数の者による業務遂行、チェック体制の確立 部内での連携や応援体制の確立 リスクマネジメントの実践			
価値観 (創造性・つながり)		新しい発想やアイデア、チャレンジが生かされ、やりがいを感じられる組織づくり 市民の視点、市民との協働を意識した業務遂行			

部長宣言										方針									
部課名称		地域社会部								部長		倉澤祐基							
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																			
<u>1</u>	2	3	4	<u>5</u>	6	<u>7</u>	<u>8</u>	9	<u>10</u>	<u>11</u>	<u>12</u>	<u>13</u>	14	<u>15</u>	16	17	<u>18</u>	<u>19</u>	20
<u>21</u>	22	<u>23</u>	<u>24</u>	25	26	<u>27</u>	28	<u>29</u>	<u>30</u>	<u>31</u>	<u>32</u>	<u>33</u>	34	<u>35</u>	<u>36</u>	37	38	<u>39</u>	40
<u>41</u>	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	<u>52</u>	53	54	<u>55</u>	56	57	58	<u>59</u>	60
61	62	63	64	65	<u>66</u>	<u>67</u>	<u>68</u>	<u>69</u>	<u>70</u>	<u>71</u>	<u>72</u>	<u>73</u>	<u>74</u>	<u>75</u>	<u>76</u>	<u>77</u>	<u>78</u>	79	<u>80</u>
<u>81</u>	<u>82</u>																		
この組織の施策の柱と目的																			
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点				
市民活動の振興及び市民との協働の推進					市民の自主的な活動を支援するとともに、行政と市民との連携を深め、協働によるまちづくりを進める。										自立 共生 自助 共助 共感				
地域産業の活性化及び観光の振興					交野市の自然や歴史・文化等の地域資源を活かし、商業・工業・農業等の産業と観光が連携した地域経済の活性化に努める。										自然 共生 共助 共感				
相談体制及び就労支援の充実					相談窓口の一元化による市民相談、専門相談体制等の充実及び就労困難者に対する支援等を図る。										共助 共生				
人権・平和施策					市民一人ひとりが個人として尊重される社会を目指し、人権意識の高揚を図る。										自助 共助				
防災・防犯施策					市民の生命・身体・財産が守られるよう減災を図るとともに、犯罪発生を地域ぐるみで未然に防止する。										自助 共助				
交通安全施策					安心安全な交通社会実現のため、交通安全思想の普及と浸透を図る。										自助 共助 共生				
部長として果たそうとする役割、責任																			
市民等利害関係者に対して					市民や事業者、関係団体等との共感を大切にし、行政主導ではなく、市民等が自ら動けるようなサポートを行う。														
市長・議会に対して					情報の共有に努め、市長や議会の意図するところを理解するとともに、自らの立ち位置を誤ることなく、的確に説明責任を果たす。														
特に重点的に取り組もうと考えていること																			
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み									
組織やイベント相互の連携及び交野の魅力発信 地震、風水害等の被害を最小限にとどめる減災対策 地域防災計画の実効性の向上 地域ぐるみでの防犯体制の推進、防犯カメラの設置 市内防犯灯のLED化 産業振興基本計画の進行管理 男女共同参画推進計画の進行管理 市民等との協働マニュアル等の作成										市民等の自主的・主体的な地域振興及び産業振興 実行性の高い危機管理体制の構築									
部長としてチャレンジしてみたいこと																			
堅実性、信頼性を高めるために					市民が安全で安心して暮らせるために、国、府や市内の自主的な防災組織等と連携を図りながら防災・減災対策に努める。 産業振興、男女共同参画等の諸計画について、市民、事業者、地域等と連携、協力しあいながら実効性のあるものにしていく。														
創造性、面白さを求めて					市民、事業者、地域等が自発的な活動ができるようにサポートを行うとともに、職員が市民等と楽しく仕事ができるような環境を創出する。														

		部長宣言		組織力	
部課名称	地域社会部	部長	倉澤 祐基		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	小さな組織のため、個人や課・室間のつながりが強い 職員が若く、個性豊かで積極的 多様な外部の担い手とのつながりがある	機会	自主防災組織での防災訓練等の実施による、防災、減災に対する地域の意識向上		
弱み	業務量が膨大で、かつ流れが不安定 「地域経営」の概念と現実とのギャップ	脅威	市民ニーズ、価値観の多様化 市民活動の担い手の高齢化 自然災害の多様化、大規模化		
部が組織力を発揮するための課題					
	機会		脅威		
強み	機会を強みで活かすために ・庁内、部内連携など多様な連携方策の検討 ・多様な外部の担い手や各イベントの適切なコーディネート		脅威を強みで機会に変えるために ・社会環境の変化に対する情報収集及び適切な判断		
弱み	機会を弱みで逃がさないために ・地域経営部門が目指すべき姿の再確認 ・過去からの流れを踏まえた、市民や団体との新たな関わり方の構築 ・課を超えた部内応援体制の構築		脅威を弱みで最悪にしないために ・防災・減災に対する全庁的な意識改革 ・組織内での適切な情報伝達、業務分担 ・基本的事項のマニュアル化推進		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)	組織での情報の共有化と役割分担の明確化 通常業務のマニュアル化 指示命令系統の統一化				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	的確な情報伝達と意思決定 職員個々の知識・能力の向上と、業務効率化の推進				
意思決定 (仮説・スピード)	業務の明確な把握と重要度、緊急度のみきわめによる優先順位による業務執行先を見通し、すばやく行動できる職場環境づくり 職員の政策形成能力やプレゼンテーション能力の向上				
組織文化 (開放的・自発性)	コミュニケーションが活発で風通しの良い職場づくり 違いを認め合い、個人の長所を活かしながら、組織として結果の出せる体制づくり 指示待ちではなく、行政のプロとして自ら研究し課題解決できる職員の育成				
組織構造 (分権・変化対応)	部内会議、課内会議の定期的な開催による職員間の情報共有、部内、課内の調整及び応援体制の確立				
価値観 (創造性・つながり)	新しい発想やチャレンジが生まれ、活かされる職場風土づくり 研修参加を促すとともに、市民や学生など多様な担い手との対話の機会創出				

部長宣言											方針										
部等名称		市民部									部長		井上 恵子								
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																					
1	2	3	4	5	<u>6</u>	7	8	9	10	11	<u>12</u>	13	14	<u>15</u>	<u>16</u>	<u>17</u>	18	<u>19</u>	20		
21	22	23	<u>24</u>	25	26	27	28	<u>29</u>	<u>30</u>	31	32	33	34	35	36		38	39	40		
<u>41</u>	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	<u>56</u>	57	58	59	60		
61	<u>62</u>	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	<u>77</u>	78	79	80		
<u>81</u>	<u>82</u>																				
この組織の施策の柱と目的																					
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点						
窓口業務・市民サービスの充実					親切丁寧な窓口業務を推進し、市民サービスの充実、向上に努める。 住民票等のコンビニでの交付サービスを導入し、市民の利便性を高める。 マイナンバー制度施行に伴い、個人番号の確実な付番・通知を行うとともに、個人番号カードの交付促進に努める。 市民が気持ち良く使用できるセンター運営に努める。										自助 共感 共助 共生						
保険・医療・年金制度の適切な運営と市民の健康の増進を図る					国民健康保険制度や後期高齢者医療制度、国民年金制度の適切な運営に努める。 国保被保険者の健康の保持増進を図る。										自助 共助						
部長として果たそうとする役割、責任																					
市民等利害関係者に対して					窓口業務として、的確で迅速丁寧な対応による市民サービスの充実、向上に努める。																
市長・議会に対して					情報の提供と意思疎通を図り市民サービスの向上をめざす。																
特に重点的に取り組もうと考えていること																					
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み											
<ul style="list-style-type: none"> 個人番号カード交付事務の順調な遂行と交付率の促進を図る 住民票等のコンビニ交付事業の順調な運営。 国保の健診データを用いた有効な特定健診とPDCA サイクルでの特定保健指導を実施するとともに受診率の向上を図る。 レセプト点検の強化による医療費の適正化を図る。 戸籍謄本等の不正取得防止のための登録制による本人通知制度の啓発と強化。 										<ul style="list-style-type: none"> 国民健康保険の都道府県単位の広域化への対応 利便性の高い市民サービスを目指す。 特定健診及び保健指導の効果分析に基づいた事業を実施し効果を上げる。 保険料の収納率の向上及び、医療費適正化の強化 窓口業務体制の検討 星田出張所の今後についての対応 											
部長としてチャレンジしてみたいこと																					
堅実性、信頼性を高めるために					法改正において、的確な情報の収集及び、近隣各市との連携による情報交換を図ることに より適正な業務運営を実施する 1階業務の効率的な体制について部をまたいで検討する。 「ハウレンソウ」の習慣づけと情報の共有化を図る																
創造性、面白さを求めて					将来を見据えた窓口業務、市民目線に立った窓口業務の研究 課を横断する協力体制(繁忙期には課を越えて相互に応援できる体制)																

		部長宣言		組織力		
部等名称	市民部	部長	井上 恵子			
部の現状と取り巻く環境変化						
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化			
強み	<ul style="list-style-type: none"> 住民基本台帳など市としての根幹となる住民のデータを持っている。 国民健康保険及び後期高齢者医療により、国の皆保険制度を支えている。 法定受託事務の実施(年金・国民健康保険・後期高齢者医療・パスポート発給事務) 住民票等コンビニ交付事業の開始 		機会	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバー制度による業務の変化 窓口業務の多様化 国保データヘルス計画 社会保障制度の改正 試行的な人事評価制度の導入 		
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 専門性の高い業務とルーティン業務の混在 正職員の減少を嘱託やアルバイトの職員がカバーしている 国施策、法改正の影響を受ける 		脅威	<ul style="list-style-type: none"> 景気低迷の影響や不安定な社会保障制度(保険料等の徴収率の低下・医療給付費の増大等) 戸籍、年金、国保事務等、専門性の高い事務に精通した職員の固定化 高齢社会 		
部が組織力を発揮するための課題						
	機会			脅威		
強み	機会を強みで活かすために <ul style="list-style-type: none"> 個人番号カード交付業務時、オール市民部で対応する協力体制 課を横断して課題に取り組み、知恵を行動に変えていくために学習機会を作る 民間活力導入の検討 			脅威を強みで機会に変えるために <ul style="list-style-type: none"> 各種制度を維持するため、市民の権利と義務を明確に示し、制度の理解を求める。 高齢者、障がい者にも優しい窓口対応 		
弱み	機会を弱みで逃がさないために <ul style="list-style-type: none"> 業務改善による窓口業務の見直し 業務マニュアルの作成整理 			脅威を弱みで最悪にしないために <ul style="list-style-type: none"> 保険料の適切な賦課及び徴収。 業務マニュアルの作成整理 知識の習得と共有 		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと						
仕事の流れ (双方向)	<ul style="list-style-type: none"> 窓口での受付業務と内部業務の連携による迅速な事務処理 報告、連絡、相談の徹底 総合計画、部長宣言と連動した施策や事業計画の作成と実施、検証。 部員が実施計画を理解し、同じ目標に向かう姿勢づくり 					
重点管理手法 (ビジョン・対話)	<ul style="list-style-type: none"> 部課としての業務決定事項等の迅速な伝達及び業務管理 人事評価制度試行に取り組み職員の相互理解に努める 年度2回の職員ヒアリングを課長が行い、職員の意見や悩みを把握する 					
意思決定 (仮説・スピード)	<ul style="list-style-type: none"> 部内会議・課内会議での情報の共有 個々が責任を負える範囲で意思決定できる判断能力のアップ 					
組織文化 (開放的・自発性)	<ul style="list-style-type: none"> 学び合い向上し合える組織づくりを始める 情報の共有と気軽に相談、連携できる体制づくり 個人の長所を発揮させながら、組織で最大の効果(結果)をあげる 職員同士が普段から協力しあえる関係づくり 					
組織構造 (分権・変化対応)	<ul style="list-style-type: none"> 予防を重視したリスクマネジメントの実践、柔軟で機敏な組織をめざす 係長会議の継続実施でチームワークの強化 一人一人が危機管理意識、対応能力の向上をめざせる機会の創造 職員一人一人が目標を持ち業務に取り組む。 総合計画、部長宣言、実施計画を職員が理解する。 					
価値観 (創造性・つながり)	<ul style="list-style-type: none"> 職員提案の場づくり 職員が待ちの姿勢ではなく、市民に積極的に声をかけていく。 他課との交流、普段から顔の見える関係づくり 係長を中心に係のチームワークの形成を図る 					

部長宣言											方針											
部等名称		健やか部									部長		竹田 和之									
この組織として主に担う “かたのサイズ” をめざす像（下線のあるもの）																						
1	<u>2</u>	3	4	5	6	7	8	9	10	<u>11</u>	<u>12</u>	13	<u>14</u>	<u>15</u>	<u>16</u>	<u>17</u>	<u>18</u>	<u>19</u>	20			
<u>21</u>	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40			
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60			
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80			
81	82																					
この組織の施策の柱と目的																						
施策の柱			施策の柱の目的														施策化の視点					
子ども・子育て支援の充実			妊娠から出産、育児、教育と切れ目のない子育て支援の充実を図り、子育て家庭に身近でより利用しやすい子育てサービスの充実をめるとともに、子育てをする家庭や子どもたち自身を地域全体で支えていく地域ぐるみのまちづくりの推進を図る。														共助 共生 自助 自立 共感					
幼児教育の充実			子ども・子育て支援新制度に基づき、幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善等の推進に努め、子育て環境の充実を図るとともに、子ども一人ひとりの健全な育成・発達を促す。														共助					
健康づくりと予防の支援			妊娠・出産期から高齢者までの各ライフステージに沿った健康づくりの充実を図るとともに、市民、地域と協働により、住み慣れた地域で心身とも健康でいきいき暮らせるまちづくりの推進を図る。														共助 共生 自助 自立 共感					
家庭福祉の充実			核家族化、離婚、女性就労の増加等により、子育て力が低下する中、援助が必要となる家庭等への支援充実を図るため、児童福祉等の充実や柔軟な相談体制の推進に努める。														共助					
「第4期障がい者福祉計画」に基づいた障がい児へのきめ細やかな支援			子どもの心身の発達遅滞や肢体不自由など個別の発達に合わせた療育・指導・訓練等を実施し、集団生活への適応を促すとともに、地域保育所等と連携を図ることで生活範囲や経験を広め、健やかな成長を目指す。														共助 共生					
部長として果たそうとする役割、責任																						
市民等利害関係者に対して			市民等のニーズを把握し、保健、子育て施策の推進への理解と協力を求める。																			
市長・議会に対して			健康・子育て施策の情報を提供し、市の施策に反映させるための議論を行う。																			
特に重点的に取り組もうと考えていること																						
当面の重点的取組み											中期的にみた重点的取組み											
<ul style="list-style-type: none"> 子ども・子育て支援事業計画に基づく事業の推進 保育所における待機児童の解消 健康増進計画・食育計画に基づく事業の推進 											<ul style="list-style-type: none"> 各事業計画の実現に向けた事業への取組み 											
部長としてチャレンジしてみたいこと																						
堅実性、信頼性を高めるために			各事業計画の堅実な推進を図り、市民サービスの向上に努める。市民目線による窓口対応、相談業務等の徹底を図る。																			
創造性、面白さを求めて			市民・地域への情報発信やコミュニケーションを積極的に行い、健康づくり、子育て施策の輪を広げていく。																			

部長宣言		組織力	
部等名称	健やか部	部長	竹田和之
部の現状と取り巻く環境変化			
組織の現状		影響を及ぼす周囲の環境変化	
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保一元化の取組みから教育・保育の連携が図れている。 ・民間の保育園、幼稚園との連携が図れている。 ・市民との接点が多い。 ・団体との協同関係が図れている。 ・専門知識を持つ職員が多い。 	機会	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関心のある子育てOB世代がいる。 ・子ども・子育て支援事業計画の推進 ・健康増進計画、食育計画の推進
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンパワー不足 ・業務内容の複雑化 ・職員の年齢構成の偏り 	脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て施策の複雑化 ・待機児童の増加 ・災害及び新型コロナウイルスの発生
部が組織力を発揮するための課題			
	機会		脅威
強み	機会を強みで活かすために <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画推進のための関係機関との連携 ・市民、団体との協働強化 ・業務の専門性の向上と関係機関との良好な関係づくり 		脅威を強みで機会に変えるために <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童解消に向けた資源活用 ・災害及び新型コロナウイルス発生時の関係機関との連携
弱み	機会を弱みで逃がさないために <ul style="list-style-type: none"> ・補助金、交付金の情報収集及び活用 ・管理職と職員との事業目標の整合 		脅威を弱みで最悪にしないために <ul style="list-style-type: none"> ・災害等のマニュアルの確立 ・事業計画の進捗管理
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと			
仕事の流れ (双方向)	一人ひとりが、それぞれの役割を果たせ、また応援できる環境を作る。 報告・連絡・相談の徹底		
重点管理手法 (ビジョン・対話)	コミュニケーション力を高める。		
意思決定 (仮説・スピード)	庁内、部内、課内会議などにより、職員間で情報を正確に共有する。		
組織文化 (開放的・自発性)	企画立案や課題解決のための検討の場を設ける。		
組織構造 (分権・変化対応)	職員一人で仕事をするのではなく、正・副担当制にする。		
価値観 (創造性・つながり)	事業に対する目標の設定		

部長宣言											方針									
部等名称						福祉部					部長		川村 明							
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																				
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	
81	82																			
この組織の施策の柱と目的																				
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点					
市民に身近な窓口での円滑な対応と障害者総合支援法等に基づくサービスの円滑な推進					<p>住み慣れた地域で障がい者や高齢者が生活できるようにサービスの提供基盤体制の充実を図る。</p> <p>障がい者や高齢者の権利擁護のための施策の構築と機能強化。</p> <p>相談支援事業の充実。</p>										共助 共生 自助 自立 共感					
「高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画」に基づいた高齢者へのきめ細かな支援					<p>「地域包括ケア」の考え方に基づいた福祉のまちづくりの推進を図る。</p> <p>健康寿命の延伸をめざして高齢者の元気力アップに取り組む</p>										共助 共生 自助 自立 共感					
生活困窮者への自立支援					<p>生活保護受給者の自立更生に向けた支援を行う。</p> <p>経済的困窮者に対するセーフティネットの構築を行い、生活保護申請に至るまでに他法他施策の利用につなげる。</p>										共助 共生 自助 自立 共感					
地域のセーフティネットの構築と地域福祉の推進					<p>地域と行政が「わ(和・輪)」となって支え合える福祉の街づくりを目指す。おりひめ支え愛プロジェクト(災害時要支援者支援事業)やあいさつ運動を推進し、地域福祉力の向上を目指す。</p>										共助 共生 自助 自立 共感					
部長として果たそうとする役割、責任																				
市民等利害関係者に対して					市民が安心して暮らせるために、市民のニーズを的確に把握し、福祉施策の推進への理解と協力を求める。															
市長・議会に対して					市民の代表としての意見やニーズをいただきながら、対等な関係のなかで議論、検討を行い、よりよい施策を築いていく。															
特に重点的に取り組もうと考えていること																				
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み										
<ul style="list-style-type: none"> ・第3期交野市地域福祉計画の策定 ・市民と職員の顔の見える関係づくり ・おりひめ支え愛プロジェクトの継続実施 ・生活困窮者自立支援法の円滑な導入 										<ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質の向上とジョブローテーションの確実実施 ・身近な住民サービスの向上 ・職員と市民が顔の見える関係づくり ・市民活動、地域福祉活動の活性化 ・見守りネットワーク体制の整備 ・高齢者の元気力アップのための施策の充実 										
部長としてチャレンジしてみたいこと																				
堅実性、信頼性を高めるために					<p>課を横断する事業の展開</p> <p>各課における業務改善の実施と業務マニュアルの作成</p> <p>「ホウレンソウ」の習慣づけと報告方法のシステム化</p> <p>部内会議の開催による情報の共有と協力体制の整備</p>															
創造性、面白さを求めて					<p>市民に愛される、気持ちのよい対応のできる職員の育成</p> <p>ゆうゆうセンターを市民の憩いの場、活性化の拠点にする</p> <p>職員提案の機会づくり</p>															

		部長宣言		組織力		
部等名称	福祉部	部長	川村 明			
部の現状と取り巻く環境変化						
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化			
強み	<ul style="list-style-type: none"> 相談業務がワンフロアでおこなえる。 市民との協働が多い。 他部署間の連携業務が多い。 多くの団体との協働関係を持っている。 民間、企業との連携を深めつつある。 専門的資格、知識をもつ職員が多い。 施設を戦略的に使用しやすい。 あいさつ運動、おりひめ支え愛プロジェクトなどを通して、地域福祉が浸透しつつある。 		機会	<ul style="list-style-type: none"> 法、制度の改正が毎年行われる。 市民生活に直結している。 社会福祉協議会、福祉団体、福祉事業者、福祉NPO等との実効性のある連携が構築されつつある。 地域で支え合いの活動に取り組む人材育成が進んでいる。 専門職種間のジョブローテーション 		
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 本庁との交流が少ない 業務内容が年々変化している 多問題解決に向けてのスーパーバイズが弱い 		脅威	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化や社会情勢の変化による扶助費や給付費の増大。 新たな法制度の実施 機能の増大に伴い、マンパワーが必要 		
部が組織力を発揮するための課題						
	機 会			脅 威		
強み	機会を強みで活かすために <ul style="list-style-type: none"> 市民との協働と相互理解 更なる業務の専門性の向上と関係機関との良好な関係づくり 			脅威を強みで機会に変えるために <ul style="list-style-type: none"> 市民、関係機関などの協働による事業の推進 部内職員の協働意識の推進 専門職種間の知識の共有と相互支援 		
弱み	機会を弱みで逃がさないために <ul style="list-style-type: none"> 複数担当制による相互チェック機能 人事異動(JOBローテーション) 事業実施計画の作成とマニュアルづくり 研修参加と自己研鑽 			脅威を弱みで最悪にしないために <ul style="list-style-type: none"> 管理職と職員の仕事へ向かう方向性の一致 マンパワーの確保 法制度の熟知と制度設計 		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと						
仕事の流れ (双方向)	各課事業での実施計画をたて、進捗管理をしていく マニュアル化 情報の共有化 報告・連絡・相談の徹底 部内会議と毎朝の朝礼の実施 年度2回の職員ヒアリングを課長が行い、職員の要望や提案、悩みを把握する。					
重点管理手法 (ビジョン・対話)	部内・課内会議の充実 部内連絡会の活性化					
意思決定 (仮説・スピード)	合議制の徹底(担当で抱え込まない。悩まない。) ケース検討会議の随時開催					
組織文化 (開放的・自発性)	職員提案の機会づくり					
組織構造 (分権・変化対応)	業務担当を複数にし、職員相互の協働とチェック機能を持たせる。 職場内研修の実施					
価値観 (創造性・つながり)	職員が待ちの姿勢ではなく、市民に積極的に声をかけ、働きかけを行う。 職員が市民との協働を意識して業務に活かしていく。 市民の自発的な活動の推進を促す。 他課との交流、普段から顔の見える関係づくり					

部長宣言										方針									
部等名称		環境部								部長		奥西隆							
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																			
1	<u>2</u>	3	4	5	6	<u>7</u>	8	9	<u>10</u>	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	<u>42</u>	43	44	45	46	<u>47</u>	<u>48</u>	<u>49</u>	<u>50</u>	<u>51</u>	52	53	54	55	<u>56</u>	57	58	59	60
61	62	63	<u>64</u>	<u>65</u>	66	67	68	69	70	<u>71</u>	72	73	74	75	76	<u>77</u>	78	79	80
81	82																		
この組織の施策の柱と目的																			
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点				
ごみの減量化とリサイクルの推進					市民・事業者・行政・地域組織が、「もったいない」という気持ちを認識・共有し、ごみの発生抑制、資源の循環利用を協力して行うことで、環境への負担をできる限り低減した循環型社会の形成を目指す。 市民生活を衛生的で快適に行えるよう、廃棄物の適正処理を行う。										共助 共感 自治				
低炭素社会に向けた施策展開					地球環境にやさしい持続可能な社会づくりに向けた取り組みを、市民・事業者・行政が協働して事業展開を行う。										共助 共感 共生				
生活環境の保全					市民が心地よく住める環境を守り、公衆衛生の保全に努める。市民参画のもと環境基本計画を推進する。										自然 共感				
快適な生活環境をつくる					緑豊かな山地・里山の保全と活用を行う。										自然 共生				
施設の適正な維持管理・効率的な運営					ごみ処理施設が老朽化し限界に達していることから、適正なごみ処理を行うため、新ごみ処理施設の整備事業を推進する。 乙辺浄化センター・リサイクルセンターは老朽化が進み、維持経費が増加していることから、効率的な業務運営を行い、維持コストの縮小に努めるとともに、将来的な運営についての検討を行う。										自治				
部長として果たそうとする役割、責任																			
市民等利害関係者に対して					安らぎや潤いのある生活環境の創出に努める。														
市長・議会に対して					事業計画や事業の進捗状況など、的確な情報提供を行い、対話・議論が行えるような環境を創出する。														
特に重点的に取り組もうと考えていること																			
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み									
①新ごみ処理施設整備事業の推進 ②環境基本計画の推進										①廃棄物処理施設(乙辺浄化センター・リサイクルセンター)の管理運営のあり方の検討 ②廃棄物処理の業務運営についての検討									
部長としてチャレンジしてみたいこと																			
堅実性、信頼性を高めるために					適正なごみ処理のため、新ごみ処理施設の整備事業を推進する。 市民、事業者、行政が一体となって、交野市環境基本計画に示されたビジョンの実現に努める。														
創造性、面白さを求めて					市民及び事業者と協働のもと環境基本計画に示されたプロジェクトを推進する。 市の特性を活かして、新しい魅力を創出する。														

		部長宣言	組織力
部等名称	環境部	部長	奥西隆
部の現状と取り巻く環境変化			
組織の現状		影響を及ぼす周囲の環境変化	
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理及びリサイクルは、近隣市と連携し、広域組合で対応している。 ・廃棄物処理施設の緊急時や災害時などの対応について近隣8市間で相互支援協定を締結し、処理協力体制を確立している。 ・ごみの分別やごみ出しマナーが良好であることから、ごみの減量化とリサイクルが推進されている。 ・環境保全等に取り組んでいる市民団体の活動が活発である。 	機会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画の推進により、市民、市民団体及び事業者等が参加できる機会を増やす。 ・市民や事業者による山地や山林の維持管理活動（アドプト活動） ・平成 29 年稼働予定の新ごみ処理施設建設事業の推進
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・財政状況の悪化 ・部署や施設が点在しており、まとまりに欠ける。 ・職務に関連する法令が多く、専門に担当する職員が割当てられないので深く理解できない。 	脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・第二京阪道路による環境への影響 ・資源ごみの抜き取り業者の増加 ・公社保有地をはじめとする行政財産の管理活用 ・し尿及びごみ処理施設や設備等の老朽化が問題となっている。
部が組織力を発揮するための課題			
	機会	脅威	
強み	機会を強みで活かすために <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理、リサイクルについて、更なる広域化での相互協力を推進していく。 ・市民、市民団体、事業者との協働で環境問題に取り組んでいく。 	脅威を強みで機会に変えるために <ul style="list-style-type: none"> ・市民、行政、市民団体、事業者の協働による事業の推進体制を構築する。 	
弱み	機会を弱みで逃がさないために <ul style="list-style-type: none"> ・適正な人材確保 ・市民との協働による事業展開 	脅威を弱みで最悪にしないために <ul style="list-style-type: none"> ・環境監視の充実 ・組織横断した連携 	
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと			
仕事の流れ (双方向)	報告・連絡・相談(ほう・れん・そう)を重視した、きめこまやかな連携		
重点管理手法 (ビジョン・対話)	部内会議・課内会議を定期的で開催し、的確な情報伝達・意思決定を行う		
意思決定 (仮説・スピード)	意思決定プロセスの明確化、情報の重要度・緊急度のみきわめ 職員の政策形成能力やプレゼン能力の向上による意思伝達のスピード化		
組織文化 (開放的・自発性)	職員の能力開発の支援		
組織構造 (分権・変化対応)	業務内容、業務量による適材適所(専門性など)の職員配置		
価値観 (創造性・つながり)	市民との協働による環境保全		

部長宣言												方針									
部等名称		都市整備部										部長		藤 重 章							
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																					
<u>1</u>	2	3	4	5	6	<u>7</u>	8	9	10	11	12	<u>13</u>	14	15	16	17	18	19	20		
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	<u>39</u>	<u>40</u>		
<u>41</u>	42	43	<u>44</u>	<u>45</u>	<u>46</u>	<u>47</u>	<u>48</u>	<u>49</u>	<u>50</u>	<u>51</u>	<u>52</u>	<u>53</u>	<u>54</u>	55	56	<u>57</u>	<u>58</u>	<u>59</u>	60		
<u>61</u>	<u>62</u>	63	64	65	66	<u>67</u>	<u>68</u>	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80		
81	82																				
この組織の施策の柱と目的																					
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点						
暮らしを守る					減災という視点に立ち、災害から被害の軽減を図るため、都市基盤施設の危機管理に努める。										自助 共助 自治						
快適な生活環境を創る					交野らしいまちづくり推進のため、より良い住環境の形成を図るとともに、ユニバーサルデザインの考えによる施設の整備・保全に努める。										自助 共助 自治						
永住魅力を高める					景観資源の活用と保全による魅力ある都市景観の形成。市民の足である公共交通の確保に努める。										自然 共感 共治 自立						
活力と賑わいを創る					土地所有者の意向を踏まえた計画的なまちづくりや雇用の場の創出を図る。										自助 共生 自治						
環境を守る					適正な規制誘導による良好な市街地形成及び都市の緑である生産緑地の保全に努める。										自然 共感						
部長として果たそうとする役割、責任																					
市民等利害関係者に対して					情報提供の徹底による市民との対話を通じ、課題の解決や協働の場を創出する。																
市長・議会に対して					事業推進の明確な説明と提言情報の提供																
特に重点的に取り組もうと考えていること																					
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み											
<ul style="list-style-type: none"> ・増え続ける業務量に対して効率的に処理できる体制づくりと職員への負荷軽減 ・施設管理における危機管理(老朽化対策を含む。) 										<ul style="list-style-type: none"> ・従来型とちがう浸水対策の推進 ・総合交通体系の確立に向けた取り組み ・下水道不明水対策の推進 ・二国沿道まちづくり(星田地域)の促進 ・管理施設の長寿命化対策の推進 											
部長としてチャレンジしてみたいこと																					
堅実性、信頼性を高めるために					市民・事業者・行政の役割の明確化 各々が事案に対して迅速に対応できる組織づくり																
創造性、面白さを求めて					地域・事業者等の連携の模索で、協働体制を確立																

		部長宣言		組織力	
部等名称	都市整備部	部長	藤重章		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	小組織による職員間のつながりは強い 職員の勤勉性 長期職員配属による専門性及び継続性	機会	農地減少による治水や町並みの変化 少子高齢化等社会構造の変化 補助制度等の変化		
弱み	突発的事象への迅速な対応 未経験事務における職員の意識の希薄 長期職員配属による業務意欲の維持	脅威	職員数の減少・超過勤務の常態化 協力ボランティアメンバーの高齢化 公共施設(道路・橋・下水管等)の老朽化		
部が組織力を発揮するための課題					
	機会		脅威		
強み	部には、職員の勤勉性、職員間の強いつながりがある。的確な指示・指導があれば、事業の円滑化や職場全体で課題解決へ対応することができる。		脅威を機会に変えるためには、人材の育成(特に、技術職)と財政的な措置が必要である。		
弱み	機会を逃がさないためには、職員個々の知識、技能の向上が必要である。		脅威を最悪にしないためには、各種制度の活用並びに市民等との協働した取り組みへの模索が必要である。		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)	各種業務マニュアルの整備 事務処理時間の確保				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	部内・課内会議の充実				
意思決定 (仮説・スピード)	業務におけるハウレンソウ(報告・連絡・相談)の徹底				
組織文化 (開放的・自発性)	課題に対し、自由に議論できる場の設置				
組織構造 (分権・変化対応)	継続性が担保される業務ごとのメイン・サブの二人体制の確立				
価値観 (創造性・つながり)	市民等との対話による創造力の向上				

部長宣言											方針								
部等名称		学校教育部						部長	北田 千秋										
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82																		
この組織の施策の柱と目的																			
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点				
基礎・基本の確実な定着と確かな学力の育成をめざす教育の推進					児童生徒の学習状況を的確に把握しながら基礎・基本の定着を図るとともに、授業改善のためのPDCAサイクルを確立させることにより、「確かな学力」を身につけることができるよう、学校を指導・支援する。										自助 共助				
人権教育・心の教育を基盤とした個性を伸ばす教育の推進					すべての児童生徒が、自己の可能性を伸ばし、よりよい社会を創っていきこうとする態度を育むとともに、未来に夢や希望を持ち、自らの人生や新しい社会を切り拓く力の育成に努めるよう、学校を指導・支援する。										自助 共助				
学校経営の自主性・自律性と特色ある学校づくりの推進					学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を発揮し、有機的に結合させ、協働による継続的に子どもにかかわるシステム作りを推進する。地域の人材を活用した教育活動の充実を図り、学校が家庭・地域と連携して子どもたちを育てていくという視点に立った開かれた学校づくりに努める。										自助 共生 共助				
安全で快適な学校環境の整備					学校施設の整備及び安全を確保し、安心な教育環境づくりを図る。(維持管理、老朽対策事業、環境改善事業、通学路の安全確保等) 学校保健の充実を図り、児童生徒及び教職員の保健・健康管理を行う。										自助 共助				
経済的理由により就学困難な児童・生徒の教育機会均等を図る。					経済的な理由により就学が困難な児童生徒に対して、学用品や給食費等の経費の一部を支給することにより、教育の機会均等を図るとともに、保護者の経済的負担の軽減を図る。										自助 公助				
安全で栄養のバランスに配慮した魅力ある学校給食					児童生徒に安全で栄養のバランスに配慮した魅力ある給食を提供することにより、児童生徒の健全な発達と望ましい食習慣の形成の推進を図る。学校と連携し、食育の推進を図る。										自然 自助				
部長として果たそうとする役割、責任																			
市民等利害関係者に対して					特色ある教育課程の編成・実施できるよう、学校に対し指導・助言を行う。 児童生徒が安全な学校生活を送れるよう教育環境の整備を行う。														
市長・議会に対して					市と連携した学校教育の伸展に努める。														
特に重点的に取り組もうと考えていること																			
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み									
<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校間の連携推進 学校、家庭、地域による協働体制の構築 新学校給食センター整備事業計画の推進 施設維持管理と部分的老朽化対策 非構造部材の耐震化 										<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の情(こころ)を育み、「変化する力・変化に対応する力」を育成 小中学校のトイレ改修 非構造部材の耐震化(取り組み課題) 学校施設の老朽化対策(大規模改修等) 特別教室への空調機器整備 									
部長としてチャレンジしてみたいこと																			
堅実性、信頼性を高めるために					教育方針や教育活動に関する情報を積極的に地域・家庭に発信する。 学校運営の透明性を確保するために、情報公開等により説明責任に努める。														
創造性、面白さを求めて					特色ある学校づくりの推進と学校力の向上のため、学校(校長)が新たなことに挑戦しようとする環境づくり。														

		部長宣言		組織力	
部等名称		学校教育部		部長 北田 千秋	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	様々な課題に応じた教職員研修を実施している。施設管理担当による適切な保守管理が実施できている。部門毎で、役割分担と連携が図れている。		機会	小・中学校において、それぞれの特性に応じて、PTAや地域団体等との連携による教育活動が展開されている。国における経済対策等予算の活用。新学校給食センターへの取り組み。	
弱み	学校管理・学校給食部門において正規職員の比率が事務系現業系とも低い。		脅威	学校施設の老朽化。学校給食センターの老朽化。	
部が組織力を発揮するための課題					
	機会		脅威		
強み	機会を強みで活かすために学校訪問による実態の把握。部内連携の強化。		脅威を強みで機会に変えるために部内連携の強化。補助金の有効活用と計画性。新学校給食センターの推進。		
弱み	機会を弱みで逃がさないために学校・地域との連携。臨時組織の構築。部課内のジョブ・ローテーション。非常勤職員等の活用及び委託化の検討。		脅威を弱みで最悪にしないために労働安全衛生管理の推進。学校給食衛生管理の強化徹底。		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)		「交野市学校教育ビジョン」の理念の共通理解。情報の共有化。マニュアル作成。			
重点管理手法 (ビジョン・対話)		学校・地域との連携を図り、特色ある教育の推進。各課間の連携を図る。目標設定と進行管理。			
意思決定 (仮説・スピード)		学校の情報を指導主事だけではなく、部内で共有。部内会議の定例化。発想力と展開力及び判断力。			
組織文化 (開放的・自発性)		多様な業務を取捨選択したうえで、教育行政担当者として意識の一層の向上。職員の主体性、自主的な創意工夫。			
組織構造 (分権・変化対応)		事務分掌の整理。部内連携の徹底。新学校給食センターの整備に向けて組織体制強化。			
価値観 (創造性・つながり)		必要性の少ない協議会や連絡会の統合や廃止。モチベーションの維持向上。			

部長宣言										方針									
部等名称		生涯学習推進部								部長		坪井 宏之							
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82																		
この組織の施策の柱と目的																			
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点				
スポーツ活動の促進					市民が生涯にわたって、スポーツに親しみ、健康で明るいライフスタイルが実現できるよう生涯スポーツの推進、振興を図り、スポーツ指導者の育成及び体育施設の整備充実に努める。										自助 共助 共感				
文化活動の促進					市民のニーズに応えられるよう、生涯学習の機会と場を提供し、市民が心身ともに健康で豊かな生活を過ごすことができるよう文化活動の促進に努める。										自助 共助 共感				
文化財保護					交野の文化遺産や伝統文化を次世代に継承していくために、専門的な見地から適切な保存と活用を図り、市民の理解と愛護意識を高め、ボランティアなどとの連携・協働のもと文化財保護活動を推進する。										自助 共助 共感				
青少年の健全な育成					青少年の安全・安心な活動を確保し、創造性や協調性・生きる力を育む環境づくりに取り組むため、ボランティア活動や生活・自然体験活動などの充実に努める。また、放課後児童会では運営内容と施設の充実に努め、児童の健全育成を図る。										共助 自立 共感				
図書館活動の推進					市民の多種多様なニーズに応える情報センターとして情報の収集及びその提供・発信に努める。また、市民の教養・趣味を育むとともに、次世代の子どもたちの図書館利用と読書活動を支援する。										共助 自立				
部長として果たそうとする役割、責任																			
市民等利害関係者に対して					市民の多種多様なニーズを的確に把握し、生涯にわたって学べるよう、生涯学習施策の推進への理解と協力を求める。														
市長・議会に対して					生涯学習推進部に対する市民ニーズを的確に把握し、生涯学習施策の情報を提供し、市の施策に反映させるための議論を行う。														
特に重点的に取り組もうと考えていること																			
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み									
放課後児童会施設的环境整備 ふれあい館のあり方の検討 学校図書館支援事業の推進 指定管理者との連携・協議 放課後子ども総合プランの推進										交野市生涯学習ビジョンの策定 私部城跡史跡指定基本計画の策定 生涯学習施設の適切な活用・維持管理									
部長としてチャレンジしてみたいこと																			
堅実性、信頼性を高めるために					情報提供の徹底による市民との対話を通じ、課題の解決や協力体制の場を創出する。														
創造性、面白さを求めて					市民生活を豊かにするため、多種多様な学習機会の提供を行うとともに、生涯学習に関連する団体の自主的な運営に向けた支援を行う。														

		部長宣言		組織力	
部等名称	生涯学習推進部	部長	坪井宏之		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	市民が楽しめる生涯学習施設を持っている。各種団体並びに大学等と関係していることから、団体等を通じての学識と組織力、それに伴う動員力がある。	機会	文化祭・市民スポーツデー等における各種団体との文化・スポーツ活動の展開。摂南大学との連携。		
弱み	生涯学習施設の老朽化。少子化による子どもの減少と団体加入者の高齢化。	脅威	将来、組織を維持できない団体が増加する恐れが懸念される。		
部が組織力を発揮するための課題					
	機会		脅威		
強み	機会を強みで活かすために、指定管理者並びに各種団体及び大学等との相互連携による学習活動。		脅威を強みで機会に変えるために、団体分野を越える相互連携の必要性。		
弱み	機会を弱みで逃がさないために、職域の適切な区分と組織の改革。		脅威を弱みで最悪にしないために、各種団体の自主自立に向けての自主的な運営に向けた支援		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)	親切、丁寧な受付と内部業務の連携による迅速な事務処理。報告、連絡、相談の徹底。				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	部及び課としての業務決定事項等の迅速な伝達及び業務管理。				
意思決定 (仮説・スピード)	庁内・部内・課内会議にて、各職員が情報を正確に共有する。				
組織文化 (開放的・自発性)	風通しの良い組織。個人の長所を発揮させながら、組織で最大の効果(結果)をあげる。				
組織構造 (分権・変化対応)	情報提供の徹底と予防を重視したリスクマネジメントの実践、柔軟で機敏な組織をめざす。				
価値観 (創造性・つながり)	市民にとって親しみのもたれる職場。組織どうしで応援しあう。				

部長宣言											方針									
部等名称		消防本部									部長		西 忠 男							
この組織として主に担う “かたのサイズ” をめざす像（下線のあるもの）																				
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	
61	62	63	64	65	<u>66</u>	<u>67</u>	<u>68</u>	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	
81	82																			
この組織の施策の柱と目的																				
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点					
消防体制の充実					災害から、市民の生命、身体、財産を守るため、車両等の資機材整備を充実させる。また、大規模災害時には、隣接消防間での応援体制の充実強化を図る。										共助					
救急体制の充実					救命率向上のため、最新の救命資機材を整備するとともに、市民に対して応急手当の普及啓発活動を推進する。										自助 共助					
火災予防の啓発					火災のない安全なまちを目指して、防火啓発活動を推進し、市民の防火・防災意識の高揚を図る。										自助 共助					
部長として果たそうとする役割、責任																				
市民等利害関係者に対して					火災等の災害による被害を少しでも軽減させることを目標とする。特に救急活動においては、市民のニーズにあった活動を心掛ける。															
市長・議会に対して					市民の代表である事を念頭に置き、しっかりと意思の疎通を図りながら、的確・迅速な情報提供に努める。															
特に重点的に取り組もうと考えていること																				
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み										
・枚方寝屋川消防組合と消防指令業務を共同運用するとともに、相互応援体制の充実強化を図る。										・消防力充実強化のため、職員の増員、スキルアップに努め、消防車両等の充実強化を図る。 ・市民の防火・防災意識を高揚させるため、更なる啓発活動の推進。										
部長としてチャレンジしてみたいこと																				
堅実性、信頼性を高めるために					職員各自が消防吏員としてのプロ意識を持ち、スキルアップに努める。															
創造性、面白さを求めて					火災・救急等の災害活動だけではなく、交野市の職員として、色々な形で市民に行政サービスが提供できるよう心掛けたい。															

		部長宣言		組織力	
部等名称		消防本部		部長 西 忠 男	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	大規模災害時の大阪府下相互応援協定、緊急消防援助隊等の応援協定は存在するが、通常時は、枚方寝屋川消防組合と消防指令業務を共同運用するとともに、相互応援体制の充実強化を図る。		機会	大規模・特殊災害及び集団災害。	
弱み	団塊の世代の退職により、若年化が進み、消防技術の伝承に不安がある。		脅威	南海トラフ地震等、府県をまたぐような広域で発生する災害の対応。	
部が組織力を発揮するための課題					
機 会			脅 威		
強み	機会を強みで活かすために ・避難訓練や救命講習会の際、積極的に防火・防災の啓発活動を推進。		脅威を強みで機会に変えるために ・少数精鋭で対応できるように、各自がスキルアップに努める。		
弱み	機会を弱みで逃がさないために ・適正な人員確保。		脅威を弱みで最悪にしないために ・隣接消防間での応援体制の充実強化。		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)		毎朝、各課の調整会議を行い、月1回管理職の全体会議を実施。			
重点管理手法 (ビジョン・対話)		積極的に職員の見解を取り入れ、職務に反映できるよう努める。			
意思決定 (仮説・スピード)		あらゆる災害に即応できるように、多種多様な想定訓練を実施。			
組織文化 (開放的・自発性)		職員のスキルアップを図るため、積極的に研修会、講習会等の参加。			
組織構造 (分権・変化対応)		各課の連携を強化すること。また、消防団、警察とも連携を強化。			
価値観 (創造性・つながり)		市民が安心して暮らせる災害に強いまちづくり。			

部長宣言											方針								
部等名称	水道局										局長	奥田 長							
この組織として主に担う“かたの”サイズをめざす像(下線のあるもの)																			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	<u>79</u>	80
81	82																		
この組織の施策の柱と目的																			
施策の柱					施策の柱の目的										施策化の視点				
水道事業の整備・充実					安全:水道水の安全確保										自然 共感 共助				
					強靱:確実な給水の確保										自然 共感 共助				
					持続:供給体制の持続性の確保										自然 共感 共助				
部長として果たそうとする役割、責任																			
市民等利害関係者 に対して					<ul style="list-style-type: none"> いつでもおいしい安全な水道水を直接蛇口から飲める事業展開 的確な財政計画を策定し、健全な事業運営 														
市長・議会に対して					中・長期的財政計画を作成し、状況の変化に伴い見直しを行い、遅滞なく報告を行う														
特に重点的に取り組もうと考えていること																			
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み									
<ul style="list-style-type: none"> 第6次拡張事業の推進(私市ポンプ場築造) 企業団用水受水管の更新 										<ul style="list-style-type: none"> 基幹管路(導・送・配水管)の更新・耐震化 給水管(鉛管)の取替え 									
部長としてチャレンジしてみたいこと																			
堅実性、信頼性を 高めるために					「交野市水道ビジョン」の策定(50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を示すとともに、取り組みの目標とすべき方向性とその実現方策、関係者の役割分担などを提示する。)														
創造性、面白さを 求めて					「星の里浄水場」の完成に伴い、見学会などの開催により、市民の方に「交野の水道水」のおいしさを知ってもらう。														

		部長宣言		組織力	
部等名称		水道局		局長 奥田 長	
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	<ul style="list-style-type: none"> 自己水として「地下水」が豊富 水道水に対する高い市民満足度 第6次拡張事業の推進 		機会	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する市民意識の向上 節水機器の普及 	
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時における復旧対策 施設更新に多額の費用が必要 技術、経験を持った職員の退職 		脅威	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化 地震等大規模災害の発生 	
部が組織力を発揮するための課題					
機 会			脅 威		
強み	<ul style="list-style-type: none"> 機会を強みで活かすために、 水道システムの充実(私市ポンプ場等の築造) 「星の里浄水場」稼働に伴う自己水(井戸水)割合増加(60%⇒70%⇒80%) 小水力発電設備の設置 		<ul style="list-style-type: none"> 脅威を強みで機会に変えるために、 重要施設の耐震化 老朽施設の計画的更新計画の策定 管路管理システムの検討及び導入 		
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 機会を弱みで逃がさないために、 中・長期的な財政計画の策定 		<ul style="list-style-type: none"> 脅威を弱みで最悪にしないために、 課題の抽出 各種危機管理マニュアルの策定 		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)		<ul style="list-style-type: none"> 民活を有効に利用し、水道職員の能力を発揮できる職場づくりを行う 			
重点管理手法 (ビジョン・対話)		<ul style="list-style-type: none"> 職員の意見を聞きながら、時代に合った、新たな「交野市水道ビジョン」を検討する 			
意思決定 (仮説・スピード)		<ul style="list-style-type: none"> 持ち場の仕事を理解し、適切な計画・行動を図る 			
組織文化 (開放的・自発性)		<ul style="list-style-type: none"> 職場の課題を目標として取り組む 指示をされるのではなく、考え、提案し、行動に移せる専門性の確立 市民に対し、「お客様である」との意識づくり 			
組織構造 (分権・変化対応)		<ul style="list-style-type: none"> 少数精鋭で職域を超えた創意工夫の出来る組織体制づくり 協調性のある環境を得ることにより、仕事の効率化を図る 			
価値観 (創造性・つながり)		<ul style="list-style-type: none"> 市民の水は、職員一人一人が守り、飲んで頂くという自覚を持つ 星の里浄水場の完成に伴い、自己水と企業団水の2系統受水することによる「安全」、「安心」、「安定」がより強化され、市民に満足してもらえる 職員が積極的にイベントに参加し、市民とふれあい、「かたのらしさ」を共に認識する 			

		部長宣言										方針									
部等名称		議会事務局										局長		濱中 嘉之							
この組織として主に担う“かたのサイズ”をめざす像(下線のあるもの)																					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40		
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60		
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	<u>77</u>	78	79	<u>80</u>		
81	82																				
この組織の施策の柱と目的																					
施策の柱		施策の柱の目的														施策化の視点					
その他の主要事業		<p>市議会における会議の内容や経過など、さまざまな情報を市民へ提供し、議会に対する理解を深める。</p> <p>議員が市民の声を市政に反映するため、市域内外の課題や行政需要を的確に把握し、解決のための方策を調査・研究し政策や事業の決定を行うとともに、議員の条例提案力をサポートすべく、事務局は調査・研究力を高める。あわせて例外事例への柔軟な対応や瑕疵のない議事運営を行う。</p>														共生 共助 自立					
部長として果たそうとする役割、責任																					
市民等利害関係者に対して		広く、議会の情報を伝えるよう努める。																			
市長・議会に対して		議会の議事運営が瑕疵なく、円滑に行われるよう努める。																			
特に重点的に取り組もうと考えていること																					
当面の重点的取組み										中期的にみた重点的取組み											
議会改革の一環として、「交野市議会基本条例」の制定されたことから。事務局は、その補助者として、最大限のサポートを行う。										議会の議事運営が、適正に瑕疵なく、円滑に執行できているのか、時間をかけて再点検する。											
部長としてチャレンジしてみたいこと																					
堅実性、信頼性を高めるために		業務マニュアル等の整備 職員のスキルアップ																			
創造性、面白さを求めて																					

		部長宣言		組織力	
部等名称	議会事務局	局長	濱中 嘉之		
部の現状と取り巻く環境変化					
組織の現状			影響を及ぼす周囲の環境変化		
強み	少人数による情報共有の容易さ		機会		
弱み	経験豊富な人材が少なく、専門知識が不足		脅威		
部が組織力を発揮するための課題					
機 会			脅 威		
強み					
弱み			中長期的にみた場合、今後近畿市議会議長会、大阪府市議会議長会の会長市となることから、職員の一層のスキルアップとともに体制及び人材の確保が必要となる。		
部長として組織力を発揮させるためにしたいこと					
仕事の流れ (双方向)	報告・連絡・相談の徹底				
重点管理手法 (ビジョン・対話)	事務局内での会議の充実				
意思決定 (仮説・スピード)	業務マニュアル等の整備を進めることで、即断すべき案件と熟考すべき案件を見分け易くし、効率よく意思決定を行う。				
組織文化 (開放的・自発性)	勉強会を行い、専門的知識の向上を図る。				
組織構造 (分権・変化対応)	事務局職員が全ての担い手となり、「誰もが何でもできる、何でもわかる人材」の育成に努める。				
価値観 (創造性・つながり)	議会改革の重要性について、事務局職員もその理解を深める。				

組織・機構の一部見直しに伴う新旧対照表

新		旧	
総務部	総務課 人事課 情報課	<u>総務部</u>	総務課 情報課 <u>行政経営室</u> 財務課 税務室
<u>企画財政部</u>	秘書・政策企画課 財務課 財産管理課 税務室		
地域社会部	みんなの活力課 地域安心課 人権と暮らしの相談課	地域社会部	<u>社会総務室</u> みんなの活力課 地域安心課 人権と暮らしの相談課
市民部	市民課 星田出張所 医療保険課	市民部	<u>市民総務室</u> 市民課 星田出張所 医療保険課
健やか部	子育て支援課 機能支援センター こども園課 健康増進課	健やか部	<u>健やか総務室</u> 子育て支援課 機能支援センター こども園課 健康増進課
福祉部	<u>福祉総務課</u> 生活福祉課 障がい福祉課 高齢介護課	福祉部	<u>福祉総務室</u> 生活福祉課 障がい福祉課 高齢介護課
環境部	環境衛生課 環境事業所 <u>環境総務課</u> 環境事業所 <u>環境事業課</u> リサイクルセンター 乙辺浄化センター	環境部	<u>環境総務室</u> <u>みどり環境課</u> <u>生活環境課</u> 環境事業所 リサイクルセンター 乙辺浄化センター
都市整備部	都市計画課 開発調整課 土木建設課 下水道課	都市整備部	<u>都市総務室</u> 都市計画課 開発調整課 土木建設課 下水道課

※ 新設または変更した組織名称に下線